



2016年度
決算説明会資料
2017年 5月10日

株式会社UACJ

1. 業績～2016年度、2017年度見通し

2. グローバル展開～タイ、北米、日本
2016年度総括と今後の見通し

3. 財務状況、株主還元

4. 中期経営計画進捗

1. 業績～2016年度、2017年度見通し

経常利益 198億円（対前期比 78億円増）

■ 数量：対前期比増、自動車、液晶・半導体製造装置向けが増加

■ 経常利益：対前期比78億円（65.0%）増

「主な増益要因」

- ・ 統合効果によるコストダウン
- ・ タイ損益改善
- ・ 販売数量の増加
- ・ 棚卸評価関係の改善

配当年間 6円／株を予定

■ 安定配当の観点から、配当は年間6円／株を予定
（中間配当3円／株、期末配当3円／株）

2016年度 通期業績



(単位：億円)

	2015年度 (A)	2016年度 (B)	増減 (B) - (A)
連結売上高	5,757	5,683	△74
連結営業利益	152	259	107
棚卸影響前 連結経常利益	203	240	37
連結経常利益	120	198	78
連結当期純利益	51	87	36
Adjusted EBITDA	523	568	45

※ 連結当期純利益：親会社株主に帰属する当期純利益

※ Adjusted EBITDA：EBITDA - 棚卸評価関係

セグメント別 売上高・営業利益

(単位：億円)

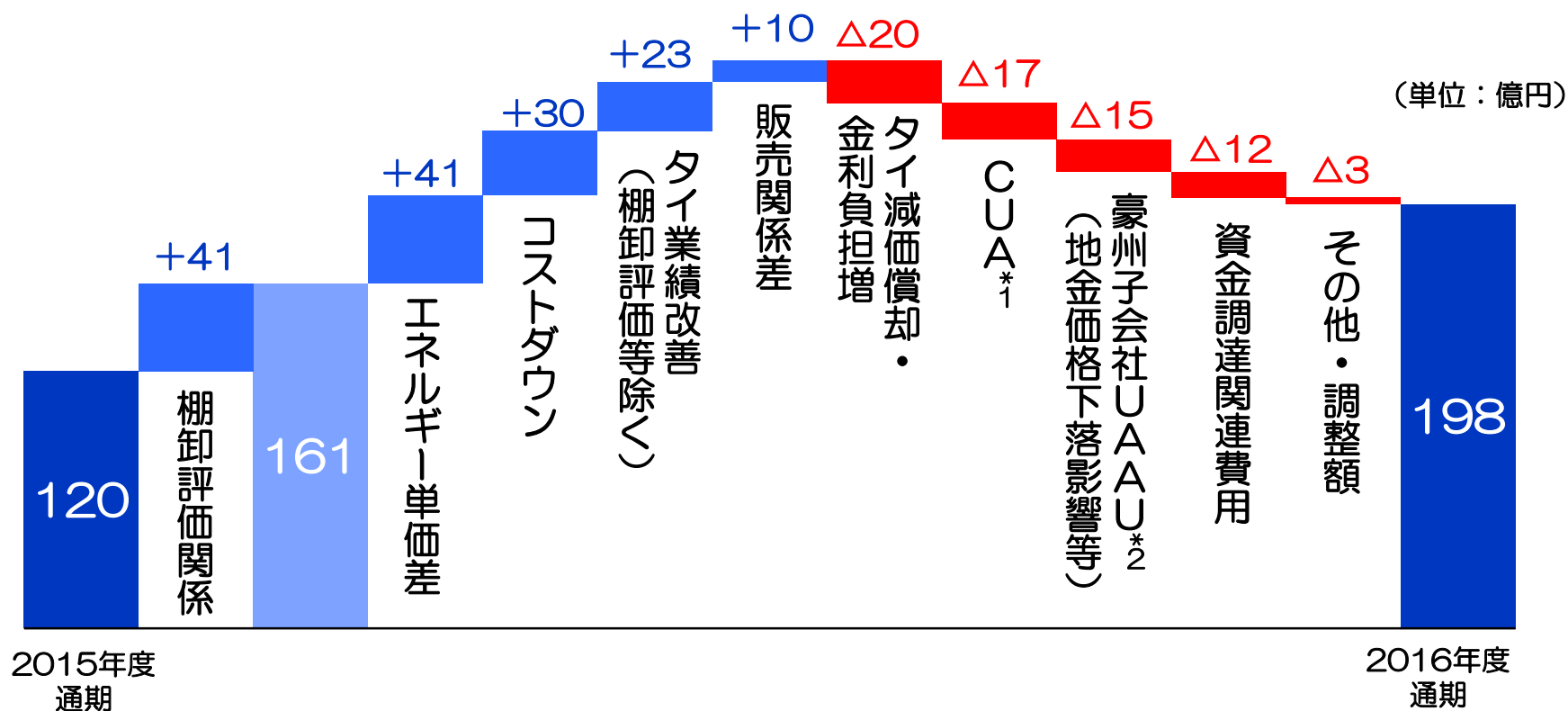
	2015年度 (A)		2016年度 (B)		増 減 (B) - (A)	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
アルミ圧延品	4,609	181	4,513	268	△96	86
伸銅品	469	3	432	7	△37	4
加工品・関連事業	1,671	37	1,667	37	△3	△0
(調整額)	△991	△70	△929	△53	62	17
合 計	5,757	152	5,683	259	△74	107

連結経常損益分析

(2015年度 → 2016年度)

120億円 (2015年度) → 198億円 (2016年度)

統合効果差 +30億円を含む
(2015年度 80億円 → 2016年度 110億円)



アルミ板 品種別売上数量

(単位:千トン)

品 種	2015年度 (A)	2016年度 (B)	増 減 (B) - (A)
缶 材	614	626	11
箔 地	46	47	1
I T	21	20	△1
自 動 車	80	104	24
厚 板	62	67	5
その他一般材	146	158	12
合 計	970	1,021	51
	(国内市場向け 510 海外市場向け 460)	(国内市場向け 518 海外市場向け 503)	(8 43)

経常利益 300億円（対前期比 102億円増）

■ 数量 対前期比増

- ・タイの缶材が大幅に増加
- ・自動車向け、液晶・半導体製造装置向けも引き続き好調

■ 経常利益 300億円（対前期比51.4%増）

- ・タイの損益改善
- ・販売数量の増加
- ・コストダウン
- ・棚卸評価関係の改善

配当 年間6円／株を予定

- ## ■ 設備投資による支出、財務状況を勘案し、安定配当を継続
- 年間6円／株を予定（中間配当3円／株、期末配当3円／株）

*単元株式数変更および株式併合（2017年10月1日に変更）前のベースで表記

2017年度 通期業績見通し



(単位：億円)

	2016年度 (A)	2017年度見通し (B)	増減 (B) - (A)
連結売上高	5,683	6,300	617
連結営業利益	259	360	101
棚卸影響前 連結経常利益	240	252	12
連結経常利益	198	300	102
連結当期純利益	87	170	83
Adjusted EBITDA	568	604	36

諸元（2017年度）：アルミ地金日経平均 275円/kg，為替 112円/US\$，原油 55US\$/B

※ 連結当期純利益：親会社株主に帰属する当期純利益
 ※ Adjusted EBITDA：EBITDA - 棚卸評価関係

セグメント別 売上高・営業利益

(単位：億円)

	2016年度 (A)		2017年度 見通し (B)		増 減 (B) - (A)	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
アルミ圧延品	4,513	268	5,011	349	498	81
伸銅品	432	7	485	16	53	9
加工品・関連事業	1,667	37	1,818	49	150	12
(調整額)	△929	△53	△1,014	△54	△85	△1
合 計	5,683	259	6,300	360	617	101

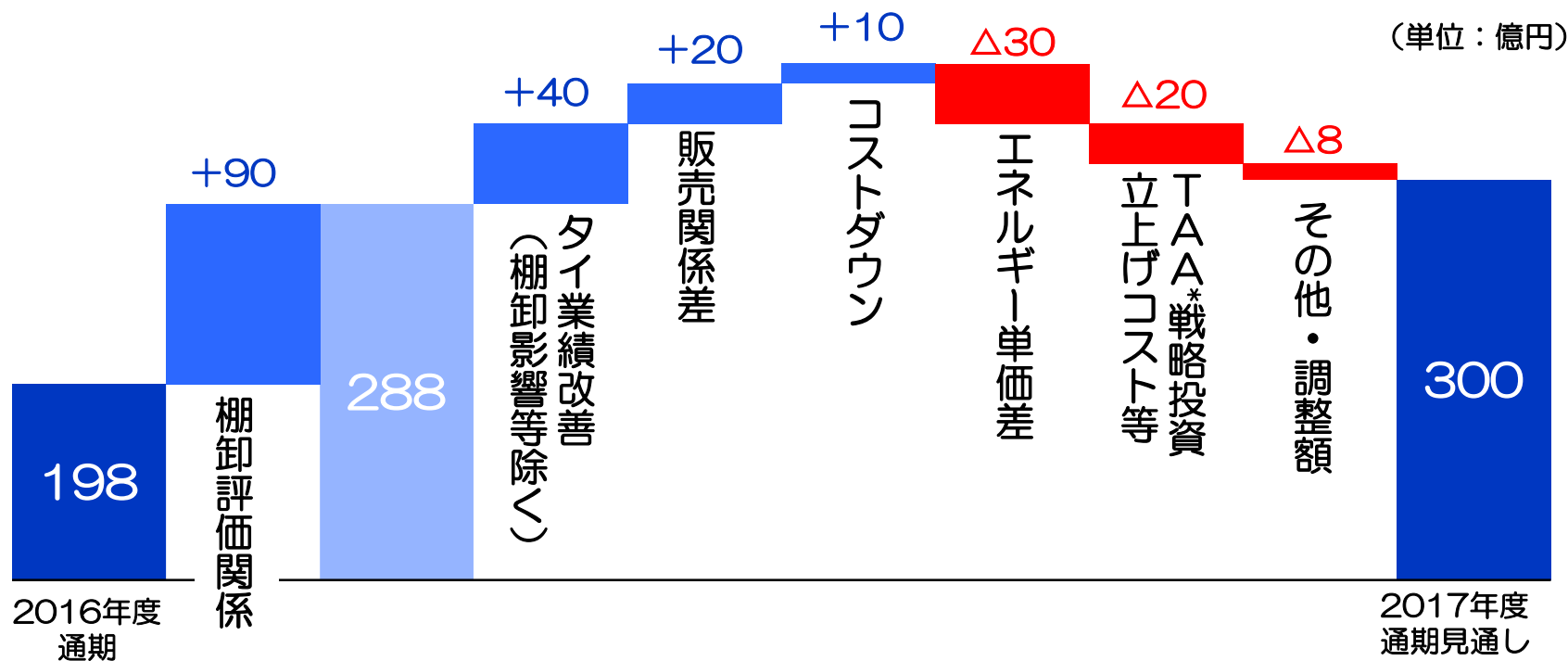
連結経常損益分析

(2016年度 → 2017年度 見通し)

198億円 (2016年度) → 300億円 (2017年度見通し)

統合効果差 +10億円を含む

(2016年度 110億円 → 2017年度 見通し 120億円)



アルミ板 品種別売上数量

(単位:千トン)

品 種	2016年度 (A)	2017年度 (B)	増 減 (B) - (A)
缶 材	626	665	39
箔 地	47	53	6
I T	20	25	5
自 動 車	104	135	31
厚 板	67	57	△10
その他一般材	158	175	17
合 計	1,021	1,111	89
	(国内市場向け 518 海外市場向け 503)	(国内市場向け 536 海外市場向け 575)	(18 71)

2017年度設備投資：北米、タイでの戦略投資を中心に増加見込み

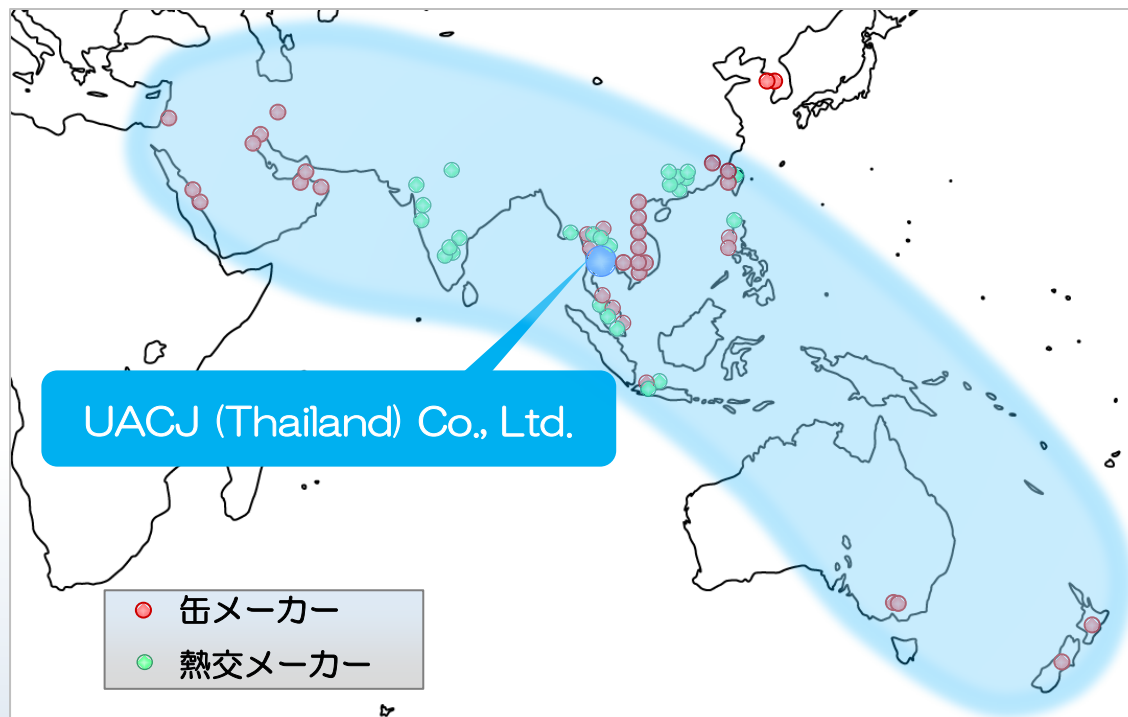
(単位:億円)

		2016年度	2017年度 見通し
設備投資	一般投資	112	159
	戦略投資	204	454
	合計	316	613
減価償却費		228	250
戦略投融资		231	38

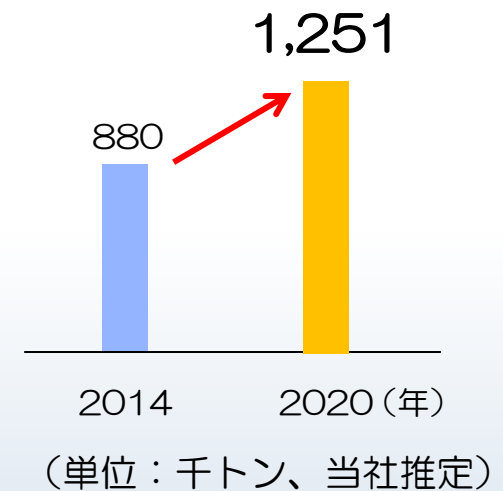
2. グローバル展開～タイ、北米、日本 2016年度総括と今後の見通し

需要はアジアから中東・豪州まで拡大

- UATH*のお客様は50社以上に拡大中
- アジアだけでなく、中東、豪州のお客様からの引き合いも強い



豪州・アジア（日本・中国除く）
中近東・インド・アフリカ
缶材需要見通し



2019年度以降投資効果が実現、EBITDAが大幅に拡大

2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021 (年度)

投資額

第1・2期 595億円

第3期 390億円

対象

第1期 冷間圧延、
表面処理・塗装
第2期 鋳造～熱間圧延、
フィン塗装

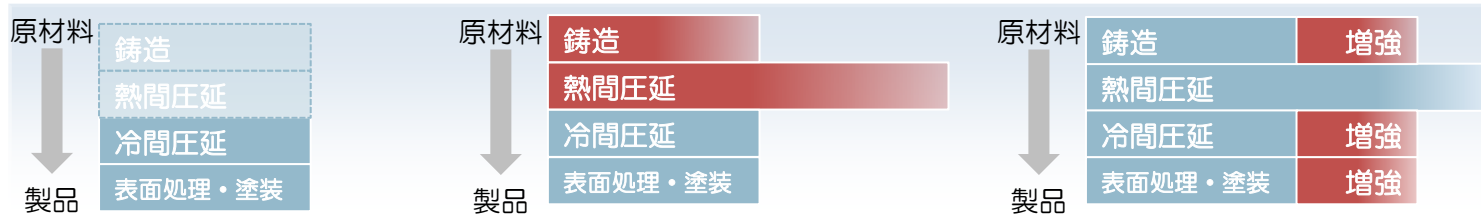
鋳造、冷間圧延、
表面処理・塗装

生産能力

第1期 6万t/年

第2期 18万t/年

第3期 32万t/年



EBITDA

2016年度→2021年度比較

150億円増加



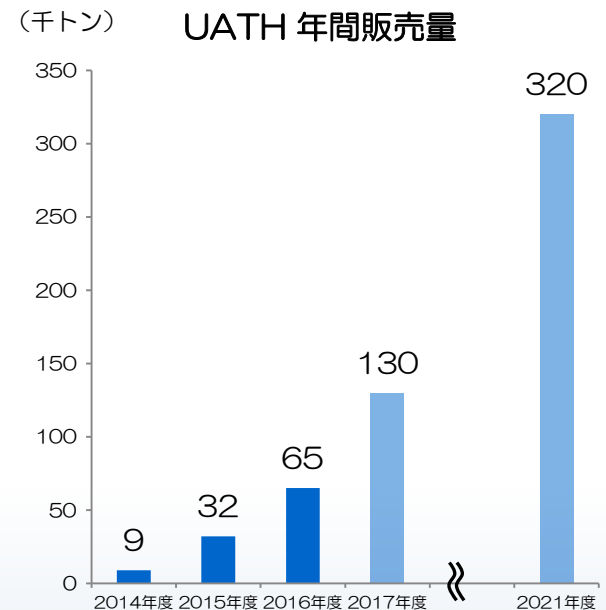
2017年度下期営業損益、2018年度経常利益で黒字化を目指す

2016年度総括

- 第3期設備投資決定（約390億円、11月）
- 習熟度は徐々に向上
- 材料認定が予定より遅れたが、販売数量増加

今後の見通し

- 缶材での材料認定の遅れは、2017年度上期中には解消見込み
- 販売量：足元8~9千トン/月
下期平均1.3万トン/月へ
- 2017年度下期に営業損益、2018年度には経常損益での黒字化を目指す



缶材への供給懸念、自動車用パネル材需要の拡大

缶材：大手の自動車シフトで供給懸念

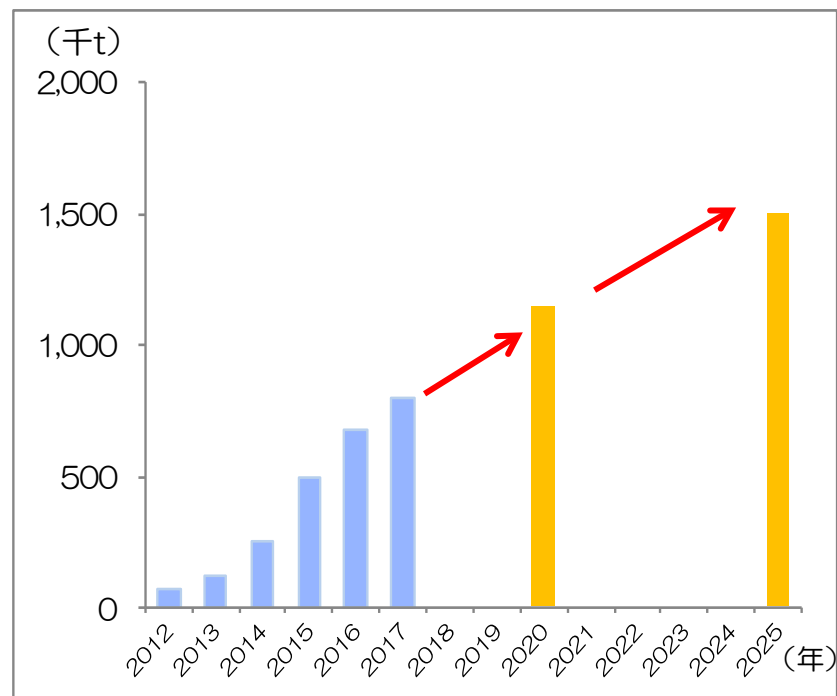
米国にて自動車用パネル材への
設備投資を大手各社が発表
(A社、N社ほか)
→缶材への供給懸念

世界一の缶材生産効率をもつ
TAA*の市場プレゼンス向上
事業機会のさらなる獲得

業界における
「リーディングサプライヤー」へ

自動車：CAFE規制対応で需要増加中

北米：自動車用パネル材市場需要



(単位：千トン、当社推定)

缶材・自動車材の安定供給にむけた投資の実行と収益拡大

2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021 (年度)

投資額

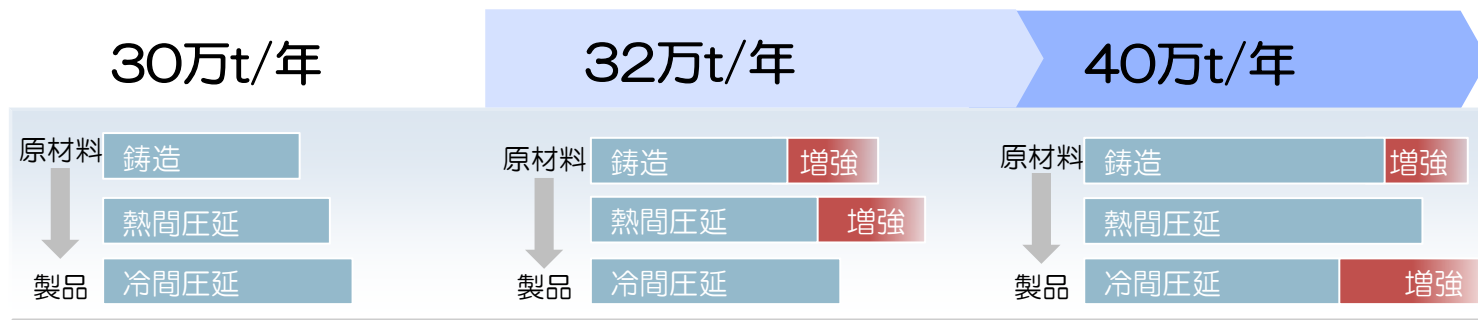
2011年8月
グループイン



対象

- ① 鋳造 (コストダウン)、熱間圧延
- ② 鋳造 (コストダウン)、冷間圧延

生産能力



EBITDA

2016年度→2021年度比較
70億円増加



自動車向け需要増、缶材供給懸念に北中米グループ子会社で対応

2016年度総括

- TAA: 鋳造投資（保留分）、冷間設備投資決定（175百万ドル、11月）
- CUA: サンプル出荷、販売開始
- Whitehallの子会社化

今後の見通し

- 自動車向け需要増、缶材供給懸念に対して北中米グループ子会社で対応
- TAA: 立上げ費用増加で、2017年度は2016年度比では減益
- CUA: 着実な認証取得と販売数量拡大
- UWH*: 設備投資の実行と販売数量拡大



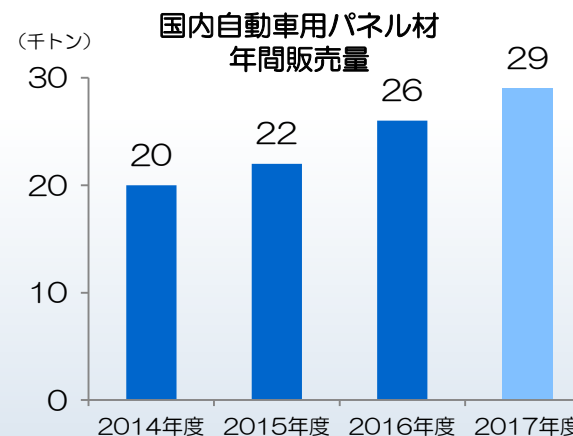
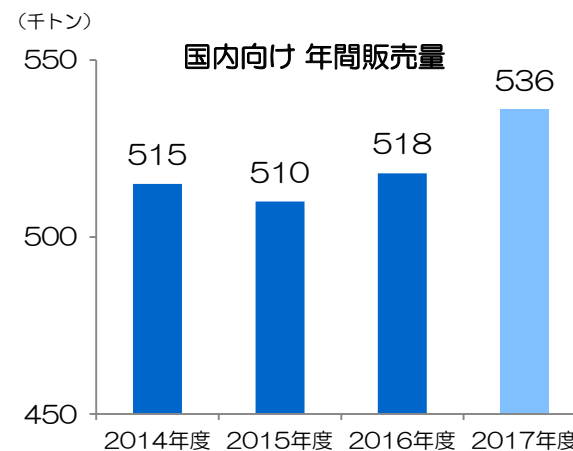
最適な生産体制の構築は概ね予定通り、統合効果は前倒しで発現

2016年度総括

- 最適な生産体制の構築は概ね予定通り
統合効果110億円
- 販売量：缶材は微減も自動車向けや厚板が増加

今後の見通し

- 缶材シェア回復、自動車向け、液晶・半導体製造
装置向け需要増への対応
- 中計最終年度として、国内生産の最適化を実現
 - コストダウンの追求
 - 生産効率の向上



3. 財務狀況、株主還元

成長資金の確保と財務基盤を強化

公募増資（5,500万株）

+

劣後ローン（60年）

金額

146億円

400億円

目的

UATH 第3期設備投資資金
生産能力向上、コスト低減

主に設備投資に充当
(買収資金除く、有利子負債返済含む)

効果/特徴

自己資本比率向上
希薄化を最小限に抑制

格付け上50%（200億円）
資本認定→財務基盤安定

公募増資と劣後ローンを組み合わせることで、
希薄化を抑えながら財務基盤の安定を図る

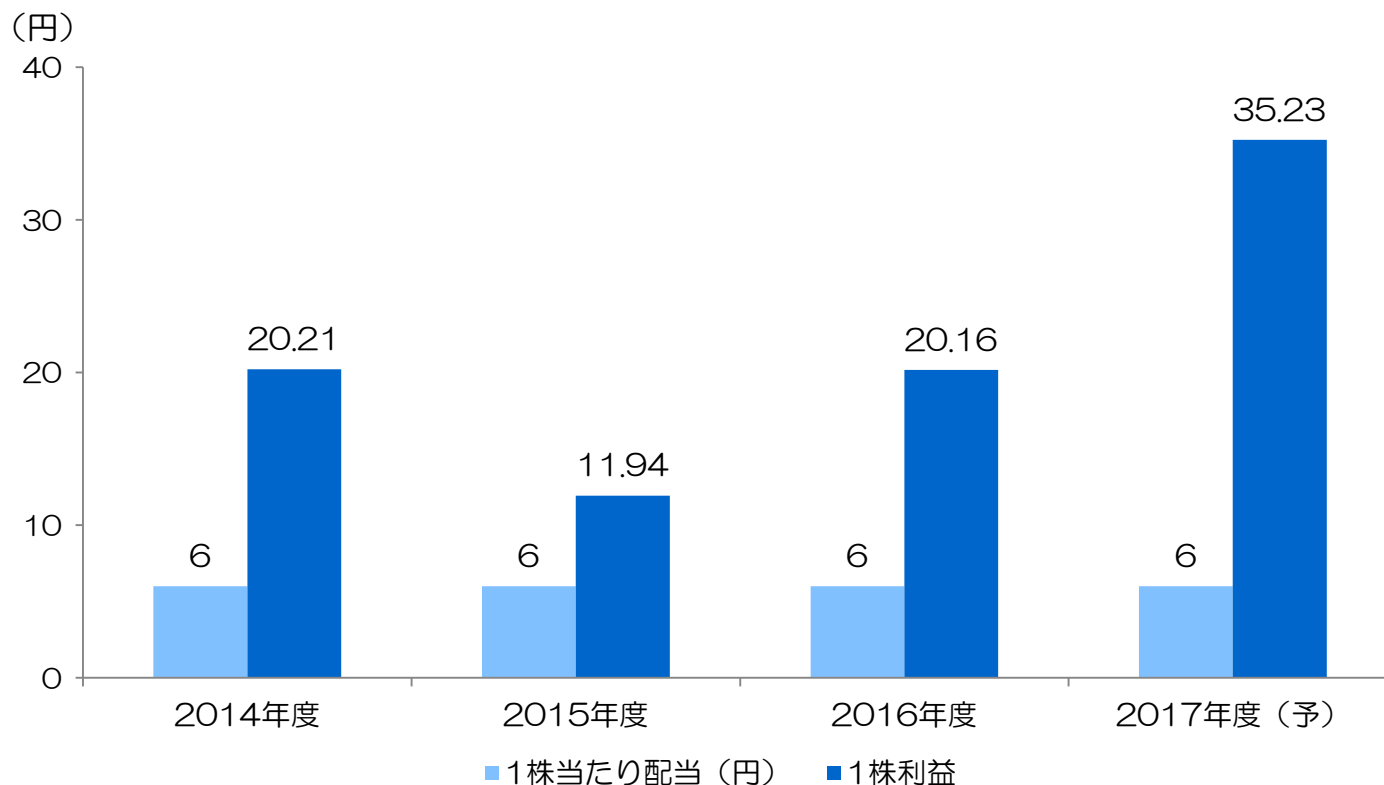
自己資本比率は改善

	2016/3末	2017/3末
自己資本（億円）	1,650	1,841
自己資本比率（％）	24.9	25.4
有利子負債（億円）	2,890	3,238
D/Eレシオ（倍）	1.75	1.49*
R O E（％）	3.0	5.0

*劣後ローンの資本性考慮後

基本方針：安定的かつ継続的に実施

業績の動向、企業価値向上のための投資、競争力強化のための研究開発資金の確保、財務体質の強化等を総合的に勘案



*単元株式数変更および株式併合（2017年10月1日に変更）前のベースで表記

4. 中期経営計画の進捗

国内No.1からアルミニウムメジャーを目指す取り組みを実行中

「Global Step I」重点方針

- 1 自動車を中心とした輸送分野、エネルギー分野などの成長製品の拡大とアジアを中心とした成長地域の事業強化
- 2 各事業の最適な生産体制の構築および技術融合の推進
- 3 先端基礎研究の強化と豊富な蓄積技術の活用による新技術・新製品の開発

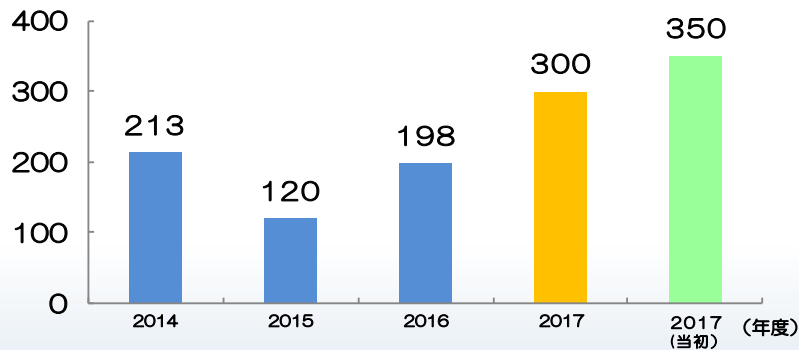
主な取り組み

- 1 北米：CUA立上げ、Whitehall子会社化（自動車用パネル材、部材）
TAA—設備投資、CUA母材供給の実行（缶材、自動車用パネル材）
タイ：UATH—貫生産開始、第3期投資の実行（缶材、熱交他）
中国：UACJ東陽光設立（熱交） 欧州：UEHEM設立（熱交）
- 2 最適な生産体制の構築は、概ね予定通り
- 3 研究リソースの名古屋への集中・一元化、新製品開発と次世代基盤技術強化を推進

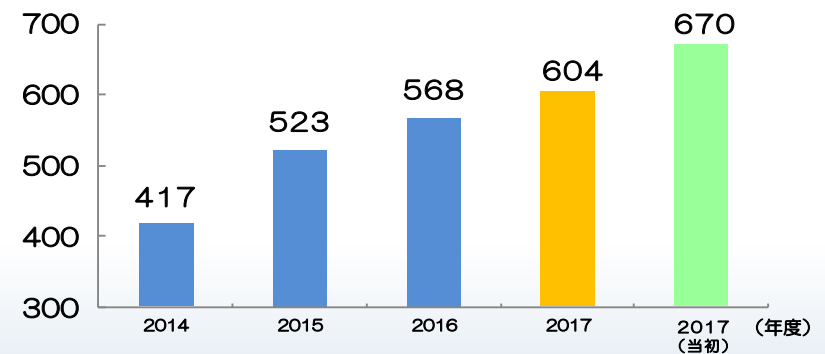
次期中期経営計画—2018年3月末に発表予定

中期経営計画の進捗状況

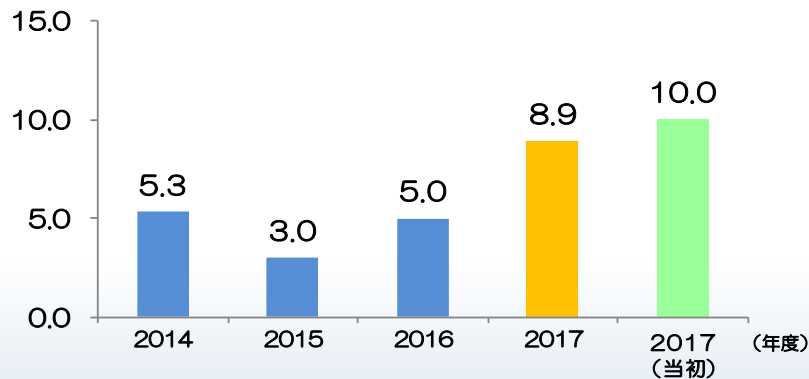
経常利益（億円）



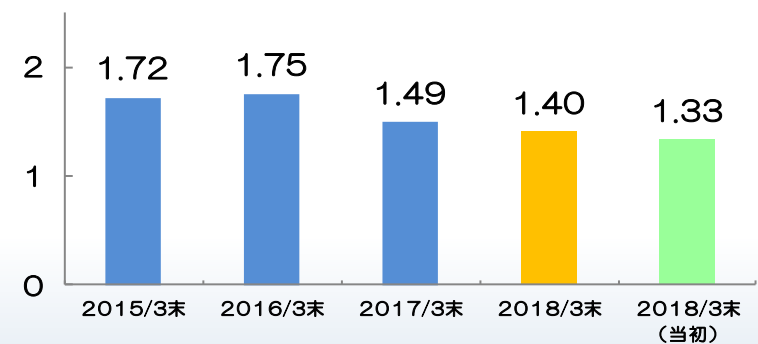
Adjusted EBITDA（億円）



ROE（%）



D/Eレシオ（倍）*



* 劣後ローンの資本性考慮後

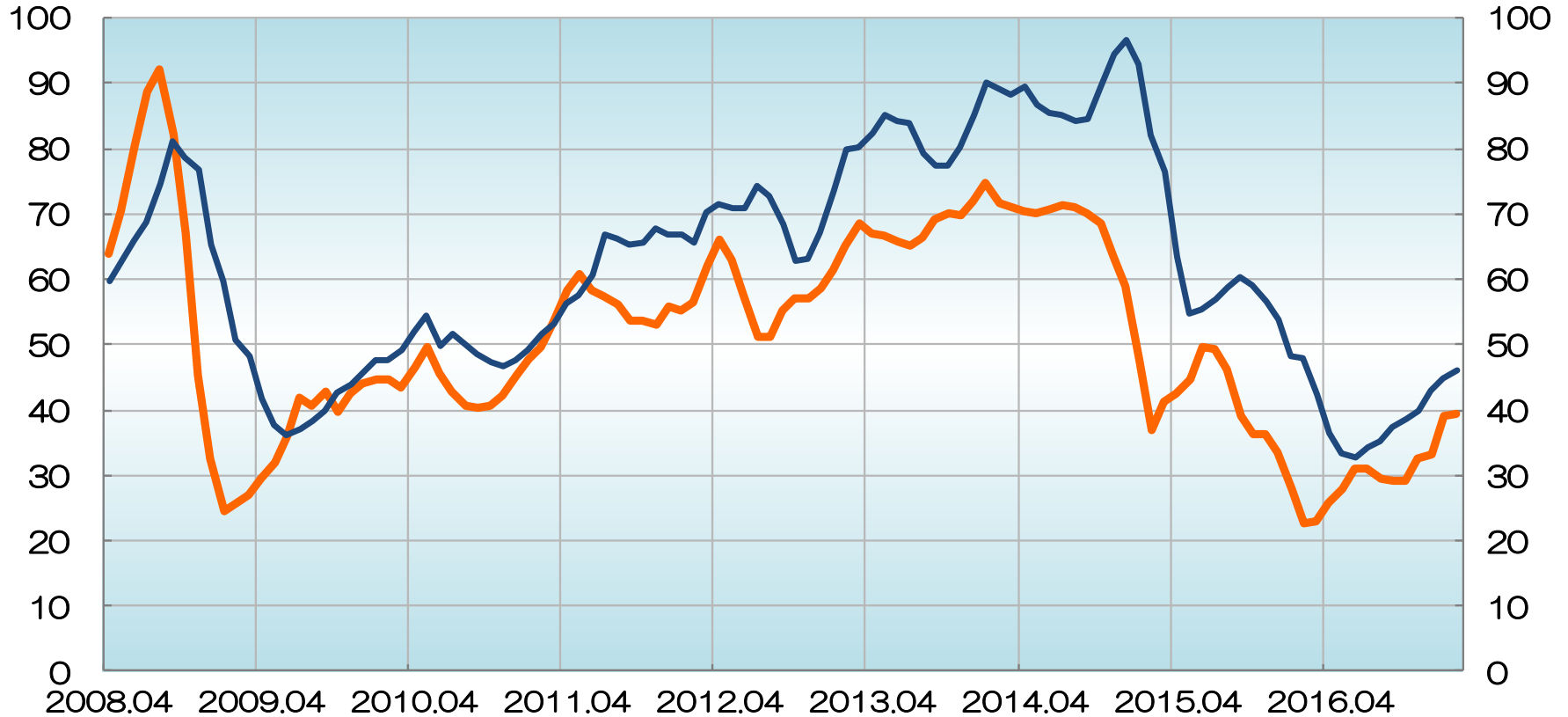
ご参考データ

	2016年度 (実績)	2017年度 (見通し)	経常利益への 感応度
アルミ地金 日経平均 (円/kg)	236	275	10円/kg変動 →20~30億円
LME (米\$)	1,688	1,900	\$100/t変動 →22~35億円
為替 (円/米\$)	109	112	ほぼ影響なし ・燃料単価、添加金属：円高が有利 ・ロールマージン、為替換算差：円安が有利
為替 (円/タイバーツ)	3.08	3.25	
原油 (米\$)	45	55	10ドルの変動 →約10億円

燃料単価推移

原油 CIF
(円/L)

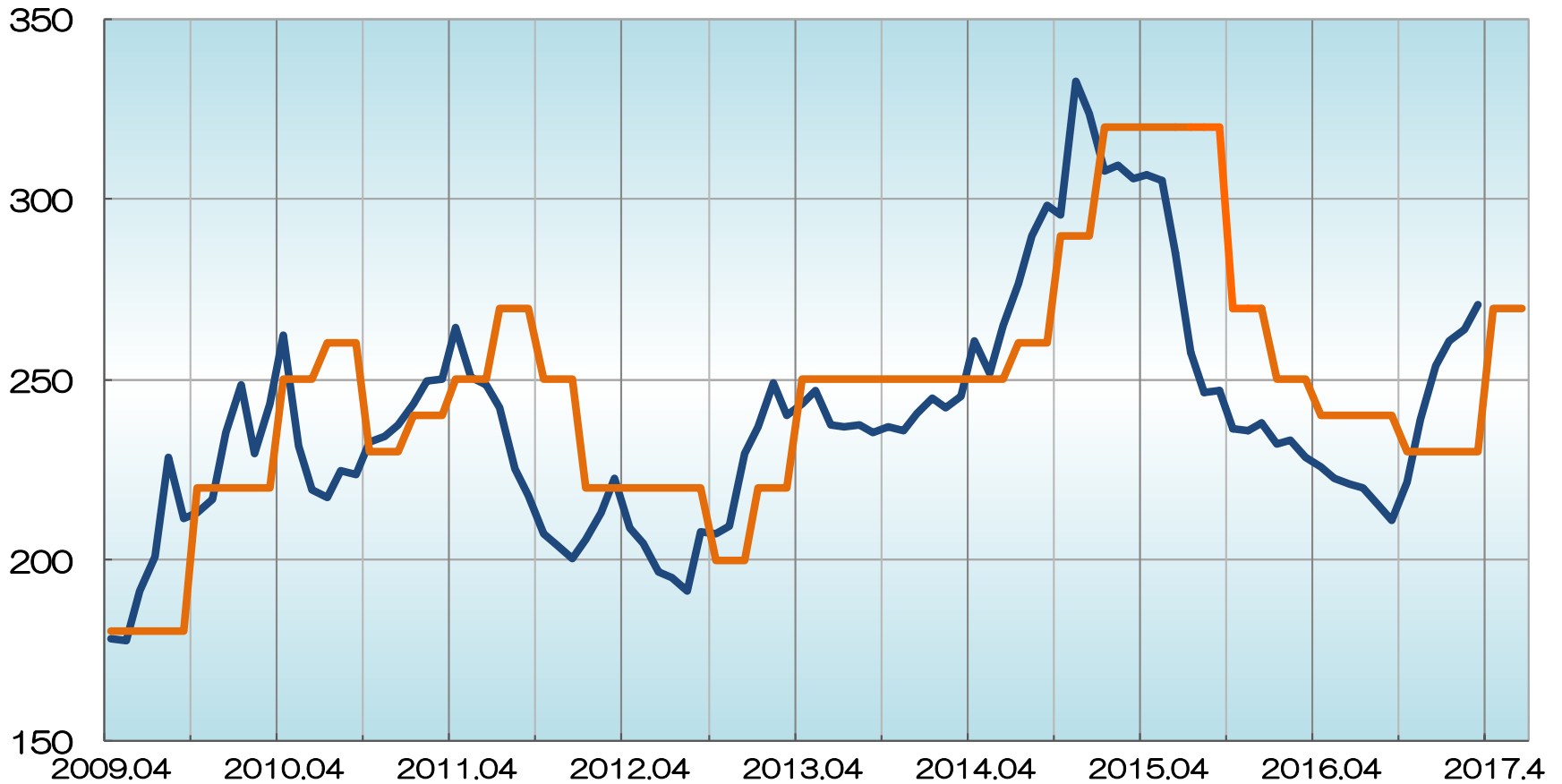
LNG CIF
(円/Kg)



— LNG CIF (円/Kg)

— 原油CIF (円/L)

(円/Kg)



— アルミ日経市況 — アルミ基準地金

主要指標推移

(億円)		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度 (見通し)
売上高		5,725	5,757	5,683	6,300
連結営業利益		237	152	259	360
棚卸影響前連結経常利益		142	203	240	252
〈棚卸評価関係〉		71	△83	△42	48
連結経常利益		213	120	198	300
連結当期純利益		86	51	87	170
Adjusted EBITDA		417	523	568	604
設備投資	一般投資	120	124	112	159
	戦略投資	345	181	204	454
	合計	465	305	316	613
減価償却費		218	222	228	250
戦略投融資		38	55	231	38
自己資本		1,723	1,650	1,841	1,982
自己資本比率 (%)		25.4	24.9	25.4	26.9
有利子負債		2,959	2,890	3,238	3,248
D/Eレシオ (倍) *		1.72	1.75	1.49*	1.40*
ROE (%)		5.3	3.0	5.0	8.9

*劣後ローンの資本性考慮後

将来情報についての注意事項

この資料に記載されております売上高及び利益等の計画のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、当社グループの各事業に関する業界の動向についての見通しを含む経済状況ならびに為替レートの変動その他の業績に影響を与える要因について、現時点で入手可能な情報をもとにした当社グループの仮定及び判断に基づく見通しを前提としております。

これら将来予想に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しており、実際の売上高及び利益等と、この資料に記載されております計画とは、今後さまざまな要因によりこれらの業績見通しとは大きく異なる場合があります、確約や保証を与えるものではないことをご承知おきください。また、本資料は投資勧誘の目的のための資料ではありません。

著作権等について

この資料のいかなる部分についてもその著作権その他一切の権利は、株式会社UACJに帰属しており、あらゆる方法を問わず、無断で複製または転用することを禁止します。

本資料ならびにIR関係の問い合わせにつきましては、下記までお願いいたします。

広報IR部 TEL : 03-6202-2654 FAX : 03-6202-2021

URL : <http://www.uacj.co.jp>

(東証1部 コード番号 : 5741)